

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280
ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



■特集 教育支援課 平成22年度重点事業報告

子どもたちの健やかな成長を願って

青少年育成指導室

田中 繁



「もう遅いから早く帰りなさい」
「遅いって何時？別に遅くても叱られないし、いいんだよ・・・」
夜十時ごろ、公園やゲームセンターを補導員が特別巡回している時の一幕である。妙に慣れた感じで、答える子ども。社会環境などの変化に伴い、最近の青少年の生活意識や規範意識の変化に驚かされる場面が少なからずある。

夜間の外出については、学校においても指導しているが、県青少年健全育成条例では、「保護者は、深夜(午後十時から午前五時まで)に、青少年をみだりに外出させないようになければならない」と保護者の監護義務を定めている。また、風営法等の規制を受けるゲームセンターは、十六歳未満の子どもは午後六時以降の入室は禁止となっている。

近年の県及び市内の補導種別を

見ると喫煙よりも深夜徘徊の補導件数が多くなってきた。このような現状を見ると、ゲームセンターへの入りとともに、深夜外出についても適宜保護者への啓発を促していく必要がある。
また、以前子どもたちから「インターネットがないと生きていけない」「ケータイがないと自分の存在がなくなる・・・」といった言葉を聞いたことがある。情報化社会の中、生活や学習をしていく上で必要なツールのひとつではある。ネット大国といわれる中国の北京では、ネットやケータイ依存症のための政府のクリニックが二〇〇五年に設けられた。そこで治療される患者は十四歳から二四歳の若者で、不安や抑鬱、睡眠不足で苦しんでおり、カウンセリングや身体活動、厳格で規則的な睡眠指導を行っているという。

市内の子どもたちの現状を見ると、自由に見える携帯電話の保有率は年々上昇しており、中学三年生で六五％となっている。また、警視庁調査によると一日のメール回数が十回以上と答える子どもは六八％を超え、ネットへのアクセスも携帯電話からが五〇％を超え、という調査結果が出ている。出会い系サイトや有害情報サイトなど、多様化しているサイバー犯罪の現状を見ると、学校の指導だけでなく、機会を通じて保護者や家族に対して、ネットや携帯電話の使用の方について、子どもと話し合い「家庭でのルールづくり」について、啓発していく必要性を益々感じる。

深夜徘徊やネット・ケータイ依存による生活習慣の乱れが、学習意欲や道徳観、正義感にも影響を及ぼすことは、各種の調査でも明らかである。子どもたちの健やかな成長を願って、正しい生活リズムを地域全体で育むことができる社会を創っていきたい。

自由に見える携帯電話の保有率は年々上昇しており、中学三年生で六五％となっている。また、警視庁調査によると一日のメール回数が十回以上と答える子どもは六八％を超え、ネットへのアクセスも携帯電話からが五〇％を超え、という調査結果が出ている。出会い系サイトや有害情報サイトなど、多様化しているサイバー犯罪の現状を見ると、学校の指導だけでなく、機会を通じて保護者や家族に対して、ネットや携帯電話の使用の方について、子どもと話し合い「家庭でのルールづくり」について、啓発していく必要性を益々感じる。

深夜徘徊やネット・ケータイ依存による生活習慣の乱れが、学習意欲や道徳観、正義感にも影響を及ぼすことは、各種の調査でも明らかである。子どもたちの健やかな成長を願って、正しい生活リズムを地域全体で育むことができる社会を創っていきたい。

研究報告

平成22年度,教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり,御協力いただきました先生方及び学校・園,関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が,今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

▶御覧ください

各研究の詳しい内容は
教育センターホームページ
教育情報データベース

<http://yec.db.city.yokkaichi.mie.jp/>

(市内小・中学校・幼稚園のみ)
で4月から御覧になれます。



第385集

研修・研究グループ 研修員 岩田 章子

小学校国語科における書く力の育成に関する研究 ～「書く力の育成プログラム」とループリックの活用を通して～

書く力をつけるために,「書く力の育成プログラム」とループリックを作成し,計画的・段階的に指導を行いました。楽しめる学習活動を通し,書き方を具体的に教えることで,表記・段落・構成等を考えた文章が書けるようになりました。また,振り返りカードとしてループリックを活用し,子どもに到達目標を事前に伝え達成する喜びを感じさせることで,書くことへの意欲が向上しました。

執筆者からの一言

書くことが苦手な子の抵抗感をなくすために,短時間で集中して,楽しく行える学習活動を計画するのがポイントです。



第386集

研修・研究グループ 長期研修員 田中 宏直

小学校算数科(量と測定領域)におけるICTを活用した指導に関する研究 ～基礎的・基本的な知識・技能の習得を中心に～

算数科の「体積」の学習で,単元の特性や児童の実態をふまえ,ICTを活用した指導を行いました。体積の概念や複合図形の求積等,具体物操作とシミュレーション教材を組み合わせることで指導を行うことで学習の理解度を向上させることができました。また,授業の初めにICTを活用して,前時までの学習内容を短時間で学び直すことも,子どものつまずきを取り除くことに効果的にはたらきました。

執筆者からの一言

キーワードは「可視化」「イメージ化」「学び直し」です。従来の方法では指導が難しい場面でICTを活用することがポイントです。



第387集

四日市市適応指導教室 長谷由香 市森幸子 加藤眞智子

四日市市の不登校児童生徒に効果的な支援方法に関する研究 ～不登校児童生徒の3年間を通じた縦断的分析から～

四日市市の不登校児童生徒の実態を分析し,傾向や課題を明らかにしました。その結果,今後,「小中の連携」「アセスメントの充実」「校内の支援体制づくり」「早期対応早期介入」といった支援を実施することが効果的であると考えます。そのための一助となるような電話対応の方法や「小中連携シート」,「3日目シート」,「支援会議コンサルテーションシート」等を提案しました。

執筆者からの一言

提案した各シートは,まだ発展途上です。今後使いやすく改訂するため,ご感想・ご意見などをいただきたいと思っています。



教育支援課 研修・研究グループから

四日市市教育委員会教育支援課 平成 22 年度

重点課題研究推進校・員の紹介

重点課題研究推進校

中部中学校

平成 21 年度から

ICT活用指導力を高めるための効果的な研修のあり方に関する研究 「確かな学力育成」のための「わかる授業づくり」

2年間の研究を通して、教職員一人一人のICT活用指導力が高まりました。生徒にわかりやすい授業を行うために、より効果のある活用場面を工夫したり、授業の構成を考えたりしました。

「ICTそのものが生徒の学力を向上させる」のではなく、「ICT活用が教員の指導力に組み込まれることによって学力向上につながる」ことが明らかになりました。



小山田小学校

平成 21 年度から

一人ひとりが生き生きと活動し、互いに学び合う授業の創造

授業のねらいを達成するために、児童の学びを深めるために、ICTはなくてはならないものとなりました。また、「児童が活用する場面」を意図的に設定することで、相手にわかりやすく伝えたり、子どもと子どもをつないだりする手段としてのICT活用が広がりました。その結果、授業だけでなく、委員会、児童集会など学校生活のさまざまな活動で、児童が自ら進んで使う場面が多くなりました。



笹川中学校

平成 22 年度から

「自他ともに大切にすることを育む」～『学び』でつながる『心』でつながる～



「基礎学力の定着・向上」の達成に向けて「授業におけるICTの活用」を位置づけて授業実践に取り組んでいます。来年度は、その成果を8月と11月に発表します。

研修委員会とタイアップしたICTプロジェクトチームを立ち上げ、全教師が年1回の研究授業を行い、ICTを活用する場面を取り入れています。

重点課題研究推進員

本年度、「言語活動の充実による学力の育成」をテーマに、3名の先生が調査研究を行いました。その内容については、平成23年夏季研修講座にて報告します。

低学年	充実した言語活動を行うために ～声を出して楽しいな～
三重小学校教諭 稲田保昭	発声練習や、簡単な詩の音読・教材の動作化を通して、子どもたちの「話し合おうとする態度」を育てました。
中学年	小学校中学年における「伝統的な言語文化」の指導方法の研究～「わくわく古典」を活用して～
下野小学校教諭 生川恵美	「わくわく古典」やフラッシュ教材を使い、伝統的な言語文化を身近なものとして感じ、おもしろいと感じられる子どもを育成しました。
高学年	生涯に生きる能力づくり ～国語科を窓口にした構造学習による指導法～
内部小学校教諭 松本克也	「生涯に生きる能力」を育てるために、構造学習理論による指導法で子どもたちに「考え方」を身につけさせる実践に取り組みました。

ICT活用を一層推進するために

情報担当者会（2月24日）からの提言



1 本年度の出前研修から

キーワード! 模擬授業、実践、協同学習

今年度の出前研修がすべて終了しました。実施校数62校！（つまり小中全校です）後期の出前研修は、日常の授業実践により近い「活用研修」になるよう、**模擬授業**を取り入れた研修でした。

研修のねらいは「ICT を用いてどのように指導すると、授業がわかりやすくなるのか」について、活用方法の工夫やアイデアを共有することです。

今後は、授業におけるICTの効果的な活用**実践**を、校内でどのように共有していくかが重要な視点となります。子どもが協同学習を通して互いに学び合いながら成長するように、教師自身もICTを学びの視点として**協同学習**していきましょう。



2 グループ討議を終えて 提言！「ICT活用をより一層推進していくための工夫」

キーワード! 授業研究、資源やデータの共有、学び合い、組織づくり

(1) 担当者も悩んでいる

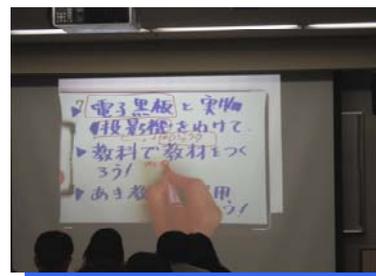
各グループの担当者から「活用頻度の差」「準備にかかる時間」「活用を広めるための苦悩」などの悩みが出されました。これまで通りの操作研修だけでは、校内での活用が広がらないようです。

一方で、実際に活用した教師の経験や活用の工夫・アイデアを共有している例や、校内研修の具体的な進め方も報告されました。



(2) 提言！「ICT活用を推進していくための工夫」

グループ討議では「今後は『模擬授業』『公開授業』『職場での気軽な学び合い(OJT)』など、ICTの有効性を学びあえる研修を実施することが最も効果的である」「学習指導教材や資料などをいつでも誰でも使用できる環境を整えることが、今後のICT活用推進の鍵となる」などの提言が出されました。



提言

「授業研究でICTの良さを知る」

「教材や資料データ、活用方法を共有する」

「気軽なOJTで学び合う」

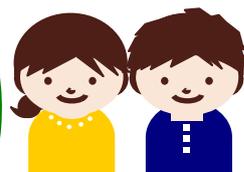
活用の工夫

(3) ICTコーディネーターへの期待が高まります！

グループ討議にも出ましたが、「活用を広めるための組織をつくる」ことは今後の課題です。来年度から情報担当者は「ICTコーディネーター」と名前を変え、職場の仲間を「ICTでつなぎ、コーディネートする」役割を担います。研修企画、組織づくり、データの共有など、コーディネーターは学校の中心となって活躍します。ICTが人と人をつなぐ**コミュニケーション**ツールとなるために、ICTコーディネーターへの期待が高まります！

不登校の子どもを支援する

四日市市適応指導教室 (ふれあい教室)



四日市市適応指導教室が新しい体制となって2年が過ぎました。心理的支援（カウンセリングやプレイセラピー等の相談支援）と教育的支援（小集団で行う学習支援や SST 等を行う適応指導による支援）の役割を明確にし、より一層の支援の充実を図っています。

今年度は、教育的支援とともに心理的支援を定期的を実施することによって、子どもたちに変化が見られています。特定の教科や短い時間に登校できるようになった子ども、学校に完全復帰できた子どもなど、保護者からも「(子どもが)こんなに変わるとは思わなかった」との声があがっています。

子どもの成長について(保護者アンケートより)

● 生活面の成長

- ・規則正しく生活できる
- ・早寝早起きができる
- ・マナーを守れる
- ・ひとりで公共交通機関を利用できる



● 心理面の成長

- ・明るくなった
- ・家で話をするようになった
- ・外出するようになった
- ・心身ともに元気になった
- ・信頼する人ができた

● 内面の成長

- ・大人っぽくなった
- ・自分の意見が言えた
- ・自分自身の問題に対して真剣に向き合うことができた
- ・学校に行きたいと思えた
- ・意欲的・積極的になった

● コミュニケーション能力の向上

- ・自分の言葉で相手に気持ちを伝えるようになった
- ・友だちと遊ぶようになった
- ・家族以外の人と話をするようになった
- ・友だちが増えた



次年度も、子どもたちの日々の成長を見守り、きめ細やかな支援を行いたいと思います。一方で、通級児童生徒の増加にともない、より一層の支援体制の整備・充実に向けて努力していきたいと考えています。



U-8 (アンダーエイト) 発達障害等早期支援事業

教室に参加した幼児・児童の保護者・担任の声を集めました!



U-8事業の4つの教室は、園・学校、保護者、教室が連携して進めていく教室です。

まずは園・学校、保護者で子どもの困り感を共通理解し、協力体制を整え、教室へつないでもらうことが、途切れのない支援を考える上で大切です。

ともだちづくり教室 45名

・学校で友達の輪の中に入れるようになり、自分から声をかけられるようになりました。(保護者)

・教室で学んでくるスキルを毎回クラスで紹介し、実践しています。(担任)

・「ともだちづくり教室の合言葉」を印刷し、道徳の授業の中で活用しました。(担任)

きぼうの教室 27名

・文字を書くことが苦手でしたが、最近、書いたり読んだりすることが日常の中でも見られました。(保護者)

・文字に興味をもつようになり、友達の名前を読もうとしたり、配り物を配ったりできるようになりました。(担任)

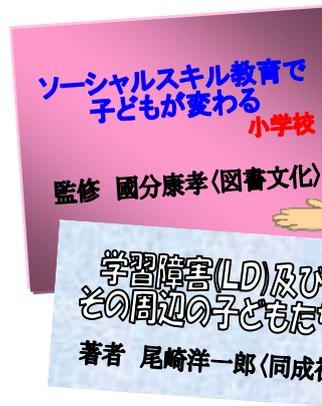
教室参加人数は平成23年1月末現在

幼児ことほの教室 38名

・発音だけでなく言葉の意味などをわかりやすく教えてもらったのが、良かったです。親子も楽しく参加できました。(保護者)

子どもの見方・ほめ方教室 45名

・以前より、子どものいいところが見つけれ、一緒にいて楽しいなと思える時間が増えました。子どもは自信がついたのか、友達の家によく遊びに行くようになりました。(保護者)



教育支援課スーパーバイザーによる巡回教育相談

昨年度に引き続き、小栗先生(特別支援教育士スーパーバイザー)による巡回教育相談を行いました。

小・中学校 10校(H23.1月末現在)にて、児童生徒の観察及び担任や校内特別支援教育コーディネーター等に助言をいただきました。巡回教育相談について以下のような感想が出されています。



子どもの困り感などの原因が、発達障害なのか、家庭環境等その他の要因なのかについても、アセスメントしていただき、参考になった。

端的に児童生徒の特性と具体的な手立てを示してもらえたことで、学校内の対応に余裕ができた。

他の子どもの支援や指導の参考にもなった。

定期的に訪問していただきたいです。



小栗正幸 先生

初見の観察での話のため、お役に立てたか心配しています。その後の子どもの様子を知りたいです。

著書の紹介

「発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ」(ぎょうせい)
「発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート」(学研)

来年度は

継続的な巡回教育相談を計画しています